

三菱自動車が再びSABICイノベティブプラスチックスのNoryl GTX*樹脂製フロントフェンダーを採用：新型コンパクトSUV『RVR』が2台目のモデルに

[東京] — 2010年7月30日 — 三菱自動車工業（以下、三菱自動車）の新型コンパクトSUV『RVR』の特徴のひとつは、フロントフェンダーにSABICイノベティブプラスチックスのNoryl

GTX*樹脂を採用しているところだ。この『RVR』はSABICイノベティブプラスチックスの協力による三菱自動車2台目の樹脂フェンダー採用モデルとなった。1台目のモデルはミニバン『デリカD:5』（2007年）で、やはりNoryl

GTX樹脂製フロントフェンダーを搭載している。スチールの代替となるこの高性能樹脂を使用することで、三菱自動車はフェンダー重量を50%近く削減、ユニークで複雑な形状を実現して新型モデルのスタイリングを差別化し、歩行者の安全性への配慮も高めている。Noryl GTX樹脂は、自動車用ボディパネル用材料としてますます注目を集めており、SABICイノベティブプラスチックスの時代を先取る自動車ソリューションの大きな要素となっている。

SABICイノベティブプラスチックス副社長グレッグ・アダムスは、「新型『RVR』のフロントフェンダーは、いくつもの賞に輝くSABICイノベティブプラスチックスのNoryl GTX樹脂にとって、画期的な出来事の1つです。この樹脂はフェンダーだけでなく、自動車外装コンポーネントの幅広い分野への採用が進んでいます」と述べる。「三菱自動車による今回の当社材の採用は、アジアの自動車メーカーで初めてNoryl GTX樹脂を繰り返し採用して頂いた（リピーター）という点で重要です。当社と三菱自動車の協力の成果は両社の優れた開発技術を示しており、世界中の消費者に大きな利益をもたらすものです。」

三菱自動車最新のコンパクトSUVである『RVR』を開発する際、同社のエンジニアはクラス最高の燃費を実現するために、部品の重量を削減するあらゆる方法を模索していた。Noryl GTX樹脂はフェンダーだけで重量を3kg削減して、これに大きく貢献している。三菱自動車はすでに、この環境にやさしい新型モデルをMitsubishi ASXとして今年後半に欧州市場に投入し、その後世界に向けて販売していくと発表している。

1つの樹脂テクノロジーがもたらす多数のメリット

Noryl

GTX樹脂は、今日の自動車メーカーが直面しているいくつもの課題に対してソリューションを提供する。この樹脂が部品の重量を削減することで燃費と排出量を抑制する効果は、環境戦略企業であるGreenOrderの監査を受けている。GreenOrderによると、この樹脂はスチールより50%軽いいため、現在ヨーロッパで走る自動車すべてにNoryl GTX樹脂製フェンダーを採用すると、5.3億リットル（1.4億ガロン）の燃料を節約し、二酸化炭素排出量を130万トン削減することができる。

またこの素材を使用することで、金属に比べ設計の自由度を高めることができる。Noryl GTX樹脂を射出成形することで、三菱自動車のデザイナーはシャープな先端部の形状や、方向指示器のサイドスロットを特徴とする複雑なフェンダー形状を採用することができた。このようなデザインはスチールの場合、複数の金型や作業工程が要求されるため、実現は容易ではなかった。

さらにSABICイノベティブプラスチックスの樹脂によって、三菱自動車の設計者とエンジニアは、フェンダーの柔軟性をスチールに比べ大きく高めることができた。柔軟性を高めることで、歩行者との衝突の際に衝撃を優しく吸収するのに効果があると期待され、さらに軽衝突の際のフェンダー復元性も期待される。

車両の生産ラインでは、Noryl GTX樹脂は作業工程を簡素化し、サイクル時間を短縮するのに貢献する。優れた耐熱性と材料自体が持つ導電性により、フェンダーは導電性プライマー塗布なしにオンライン塗装が可能であり、スチールと同等の外観品質で塗装できる。樹脂フェンダーをスチールボディとともにオンライン塗装するには、部品形状と塗装条件を慎重に設計することが不可欠となる。SABICイノベティブプラスチックスはこれに必要なNoryl GTX樹脂の供給に加え、CAEシミュレーションによる部品設計の最適化と、成形技術支援を通じて三菱自動車での部品開発をサポートした。

新型『RVR』のフェンダーはNoryl GTX樹脂の新たなマイルストーン

Noryl GTX樹脂は20年以上にわたり自動車用フェンダーに使用されてきた。1988年以降、ヨーロッパ、米国、日本、南米、中国で、2000万台以上の自動車にNoryl GTX樹脂製フェンダーが採用されている。このフェンダーをこれまで採用してきた自動車メーカーには、GM、フォード、フォルクスワーゲン、ルノー、PSAプジョー・シトロエン、BMW、アウディ、ランドローバー、メルセデスベンツ、三菱自動車、日産が挙げられる。

この素材は、General Motors (GM) 1987 MY Buick® LeSabre® T型のフェンダーとして始めて採用されたのを記念して、2009年にSPE® (Society of Plastics Engineers : プラスチック技術者協会) の自動車部門からHall of Fame (技術の殿堂) 賞を受賞している。さらに同樹脂を採用したFord Kugaのフェンダーの歩行者安全性基準達成に対する安全性部門賞の受賞によって、その性能が認められている。

SABICイノベティブプラスチックスのNoryl GTX製品の詳細については、www.sabic-ip.comへアクセスして下さい。

SABICイノベティブプラスチックスについて

SABICイノベティブプラスチックスは、熱可塑性エンジニアリングプラスチックスのグローバルサプライヤーであり、75年にわたり、顧客が直面する大きな課題を解決する画期的なソリューションを提供してきました。現在SABICイノベティブプラスチックスは、数十億ドル規模の企業であり、35か国以上に事業展開し、全世界で約9,000人の従業員がいます。SABICイノベティブプラスチックスは、顧客とのコラボレーションや、新たなポリマー技術、グローバル・アプリケーション開発、加工技術、および環境に配慮したソリューションへの継続的な投資により、自動車、エレクトロニクス、建築/建設、輸送、医療などの幅広い市場をターゲットに、今後もプラスチックス業界のリーダーであり続けます。当社の幅広い製品ポートフォリオには、熱可塑性プラスチックス、コーティング、特殊コンパウンド、フィルム、シートなどがあります。SABICイノベティブプラスチックス (www.sabic-ip.com) は、世界の5大石油化学製品メーカーの1つであるサウジ基礎産業公社 (Saudi Basic Industries Corporation: SABIC) の100%子会社です。

###

* SABIC Innovative Plastics IP BVの商標です。

SABICイノベティブプラスチックス・メディア連絡先

PR代理店連絡先

日本

杉野 光義

株式会社 東京PR

電話: 03-3273-2731

電子メール: mitsu-sugino@tokyopr.co.jp

写真の説明文

三菱自動車再びSABICイノベティブプラスチックスのNoryl GTX*樹脂製フロントフェンダーを採用：新型コンパクトSUV『RVR』が2台目のモデルに



写真：SABICイノベティブプラスチックスのNoryl GTX*樹脂をフロントフェンダーに採用した三菱自動車の新型コンパクトSUV『RVR』

2月に日本で発売された三菱自動車の新型コンパクトSUV『RVR』の特徴のひとつは、同社の2台目のモデルとしてSABICイノベティブプラスチックスのNoryl GTX*樹脂をフロントフェンダーに採用しているところだ。スチールの代替となるこの高性能樹脂を使用することで、三菱自動車はフェンダー重量を約50%削減、ユニークで複雑な形状を実現して新型モデルのスタイリングを差別化し、歩行者の安全性への配慮も高めている。Noryl GTX樹脂は、自動車用ボディパネル用材料としてますます注目を集めており、SABICイノベティブプラスチックスの時代を先取る自動車ソリューションの大きな要素となっている。

###

* SABIC Innovative Plastics IP BVの商標です。